

# 檀信協だより

発行 静岡県中部檀信徒協議会

## Vol.22

平成24年9月1日発行

編集 静岡県中部宗務所教化センター  
http://www.myouhou.com/

合掌 日蓮宗は平成三十三年の宗祖御降誕八百年に向かつて、宗門あげて運動を推進しており、本年、その第二期の二年目に入りました。本年のテーマは「合掌」です。生活の中でお互いに手を合わせて挨拶をするということも多く用いましょうということです。合掌礼には、相手に対する「敬い」のこころを表し、互いの信頼のもとに協力して安穏な社会を再建していこうという意義が含まれています。

昨年の3.11大震災以降、「絆(きずな)」を標語に、ともに助け合って破壊された社会の再建を目指そうという機運が高まっています。これは、宗祖日蓮大聖人が示される「立正安国」の教えとしつかりと重なり合うものです。人と人の本当の「絆」は、互いの「敬い」



宗務所長のあいさつ  
静岡県中部宗務所長  
常泉寺 貫名 英舜

「合掌」の礼を是非お使い下さい。  
さて、もう一つの重点テーマは「次世代の信仰的育成」です。最近、「宗教離れ、寺離れ、墓離れ」と呼ばれる風潮が社会に蔓延しています。この風潮は若い世代に特に強く、お寺や宗教に関心を持たない若者が増えています。このまま続けば、この世代が社会の中堅に成長する15年、20年後にお寺の存続が著しく困難になります。何百年も昔から営々と築かれて来た信仰が次第に薄くなり、やがて断絶してしまうことが危惧されます。

お寺を護持する心が次の世代に自然に継承されるという考えではいられません。若い人たちが、どうすれば、お寺の護持のための活動に積極的に加わっていただけるかを真剣に考える時期が来ているのです。

静岡県中部宗務所では、テレビも使つて「子供たちの、子供たちの、子供たちへ」という標語を流しています。今後さらに、どうすれば信仰が世代を越えて継承されるかを考えた布教活動に力を入れて行きたいと考えますので、どうぞご協力下さい。

最後に、今後30年間に87パーセントの確率で到来が予測される東海・東南海・南海大地震にいかに対応するかという問題への対応を始めました。昨年の3.11東日本大震災は、多くの尊い人命の損失、町まるごと流失がいつも

簡単に現実化することを示しました。また、福島第一原発の深刻な事故も併発し、大震災は私たちの生活基盤に大打撃を与えるものであることを目撃しました。この同じことが、もっと大きな規模で私たちの住むこの静岡県にも起こる可能性が高いということです。激しい揺れによる建物の損壊に加えて、大津波による被害も深刻でしょう。

静岡県中部宗務所は、この問題に真正面から取り組み、いかにすれば人命を最優先した損害を最小限度のものにすることができかを考え始めました。また、この震災後の復興に今から何を準備したらよいかを考える取り組みも始めています。今回、檀信徒協議会の総会において、檀信徒代表の方に簡単なアンケート調査を実施させていただきました。また、寺院対象のアンケートも同時に実施しています。今後、このアンケートの結果分析から、さまざまに提案させていただきます。

まとめますと、みなさんにとりまして、お寺を護持するということの本当の意味が問われている時代に入ったと言えます。仏教の原点に戻るための「合掌礼」の普及、若い世代とお寺との結び付きの促進、そして、来るべき大震災への備えなどにみなさんの主体的な取り組みをお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。 再拝

# 平成24年度 檀信徒協議会総会アンケート報告

回答者数は92名、紙面の都合上抜粋しての報告となります。

●菩提寺に訪れた際、敷居が高いと感じたことがありますか？

	回答	回答数	%
1	はい	3	3%
2	いいえ	78	85%
3	時々感じる	11	12%
4	わからない	0	0%

●菩提寺は地震保険に加入していますか？

	回答	回答数	%
1	はい	64	70%
2	いいえ	5	5%
3	わからない	19	21%
4	検討中	4	4%

●お墓の耐震工事をしましたか？

	回答	回答数	%
1	はい	23	25%
2	いいえ	47	51%
3	わからない	12	13%
4	検討中	10	11%

●菩提寺の役員会は年に何回行われていますか？(回数をお書き下さい)

	回答	回答数	%
1	1~3	40	43%
2	4~6	40	43%
3	7~9	6	7%
4	10~12	6	7%

●菩提寺に檀信徒青年会が必要だと思いますか？

	回答	回答数	%
1	はい	46	50%
2	いいえ	12	13%
3	わからない	34	37%

●人生の節目にご先祖様に報告しますか？

	回答	回答数	%
1	はい	48	52%
2	いいえ	6	7%
3	必要に応じて	38	41%

これからの寺院に何を望みますか？(ご自由にお書き下さい)

- ・檀家が足を運びやすい親しみのあるお寺づくり
- ・子供や若い世代の人たちが訪れやすい場所
- ・檀家や地域のコミュニケーションの場
- ・青少年に対する布教、指導の場所
- ・護持会との密なる協調、檀家(子供含む)の道德教育の場所
- ・檀家の目線にたった言動、見下した言動は困る
- ・通夜、葬儀はお寺で
- ・社会の発展と仏教文化のギャップを埋める
- ・寺、墓、葬儀離れへの対策と寺院の自立自営対策
- ・寺院の批判対象となる金銭に係ることは注意してほしい
- ・積極的な境内奉仕を行う
- ・住職の給料制と合同墓建設
- ・今まで通りでよい



宗門運動 「立正安国・お題目結縁運動」平成34年3月31日まで

管区テーマ 『ひろめよう合掌の心』

いのちに合掌

日蓮宗静岡県中部宗務所

〒416-0901 静岡県富士市岩本2184-2 TEL0545-64-6668

開所日:月・木・金 10:00~16:00

# 静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会

於 富士宮市 (株)藤原会館「きずな」



六月十二日、富士宮市にある(株)藤原会館「きずな」を会場に、約一二〇名の管内寺院護持会長・宗務所関係者等が集まり、平成二十四年度静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会が開催された。

はじめに貫名所長による法味言上がなされ、定例議題の平成二十三年度行事・決算・監査報告、社会教化協議会会長から一食一円アシスト募金収支決算報告がなされ、続いて、平成二十四年度行事計画、並びに収支予算の審議がなされた。

特に、後藤幸雄会長(吉祥寺護持会長)から、全国檀信徒協議会において日蓮宗の信仰を引き継ぐ次世代の育成を目的に、檀信徒青年会の結成が進められているという報告がなされた。また、静岡県中部宗務所が取り組みを始めている将来高い確率で起こることが予測されている東海・東南海・南海連

動型大地震に、いかに備えるかについて檀信徒の立場で考えようという呼びかけがなされた。

また、貫名所長から、宗門運動も第二期に入り「立正安国・お題目結縁運動」をさらに進めるため、「心」と「社会」と「人」に対し「敬い」の心で関わり、育んでいくことを強調し、前面に押し出して動くことが伝えられた。

特に、一般市民に開かれた「社会・地域に貢献した、広域性のある寺院」づくりを目指し、教師・檀信徒が同様の意識を持つて関わるべきであるという旨が伝えられた。



る中條曉秀上人(清水区本能寺住職)による『身延山と日像・日向・日朝』と題した講演がなされ、身延山を中心とした宗門の歴史について詳しい説明がなされた。

## お知らせ

一、身延山大学公開講座開催のお知らせ  
 日時 十一月十三日(火)午後二時より  
 場所 富士市「富士市交流プラザ」  
 ※詳細は後日改めてご案内致します  
 ◆一食一円アシスト募金継続中です。  
 ご協力をお願い致します。

## 基調講演法話

## 静岡県中部宗務所副長「中條 曉秀 上人」(清水区本能寺)

### 身延山と 日像・日向・日朝



られたものである。世に『身延御入山御書』とも称している。

さて、日蓮聖人の身延入山の目的の一つに、門下の教育があった。その具体例を、日蓮聖人御入滅に臨んで、京都開教を委嘱され、日蓮宗最初の京都弘通を行い、妙顕寺(京都市上京区)を拠点として、京都日蓮教団発展の基礎を築いた肥後房日像上人(一二六九〜一三四二)の読経学習の姿を見てみよう。

### 一日像の伝

- (一) 日像は下総国平賀(松戸市)の出身。
- (二) 七歳の時、六老日朗の弟子となり、経一丸として八歳の時、師日朗に伴われ身延登山。日蓮聖人の訓育を受ける。
- (三) 弘安五年(一二八二)日蓮聖人御入滅に臨んで、帝都開教を委嘱された。
- (四) 永仁元年(一二九三)帝都(京)弘通の志を果たすべく、法華経を書し、鎌倉由比ヶ浜にあつて寒百日の行を重ね(大荒行の前身)、祖跡を巡拝し(団参の嚆矢)、京都に入る。
- (五) 洛中において日毎折伏逆化に励み、有力商工業者の帰依を得て教線を拡張、妙顕寺を建立した。
- (六) 急成長は比叡山をはじめ諸宗の嫉妬を買い、三黜三赦(三度京都から追放され、三度赦されること)の法難を蒙った。
- (七) 後醍醐天皇の京都還幸を祈願、確定するや建武元年(一二三四)四月一日諭旨を受け、妙顕寺は日蓮宗最初の勅願寺となった。
- (八) 康永元年(一三四二)十一月十三日、日像は弟子の妙実に後事を託し遷化。七十四歳。

### 一日像の読経学習の姿

日蓮聖人の膝下にあつた経一丸(後の日像)は、時に八歳。現今の初等教育の就学年齢に相当する。日蓮聖人の膝下にあつた経一丸は、御給仕すると共に法華経の読誦の手解きを受ける。当然のごとく「一々文々」の姿であろう。このことは妙顕寺蔵の古文書『竜華秘書』(宗全十九卷五十三頁)に詳しい。紹介しよう。

「先師(日像のこと)八歳の時、法華経の勘文を学び候へとして、方便品(十如是・欲令衆・寿量品の偈(自我偈)・此経難持・御口唱(唱題のこと)を御受とり候。幼少



にて元師(日蓮聖人)へ給仕申し候時は、黒白を弁えざりしに、御慈悲にて御教授しと述べられ、往時の読経学習の姿が彷彿される。さらに「此文を読み候時、拝顔の心して、涙にむせび候と、先師(妙実のこと)常々御物語り候つる」と記され、後年日像は、これらの経文を拝する時、日蓮聖人のお姿が走馬燈のようによみがえり、いつも涙に咽んでおられたのを、日像の弟子妙実(大覚大僧正)が見、妙実は事毎にそのことを物語り、それを妙実の高弟朗源が筆録したものが『竜華秘書』である。

日蓮宗上代の読経学習の姿が垣間見え興味深い。

「十二日酒輪(小田原市)、十三日竹ノ下(駿河小山)、十四日車返(沼津市)、十五日大宮(富士宮市)、十六日南部(甲斐南部)、十七日このところ(身延山)」「富木殿御書」定遺八〇九頁、真蹟小松原鏡忍寺蔵)

このお手紙は、日蓮聖人が文永十一年(一二七五)五月十二日、佐渡赦免の後、鎌倉を発つて、身延山に着いた最初の書状で、身延山到着の報を檀越の富木常忍(一二二六〜一二九九)に送